



竹チップを活用したきのこの菌床栽培

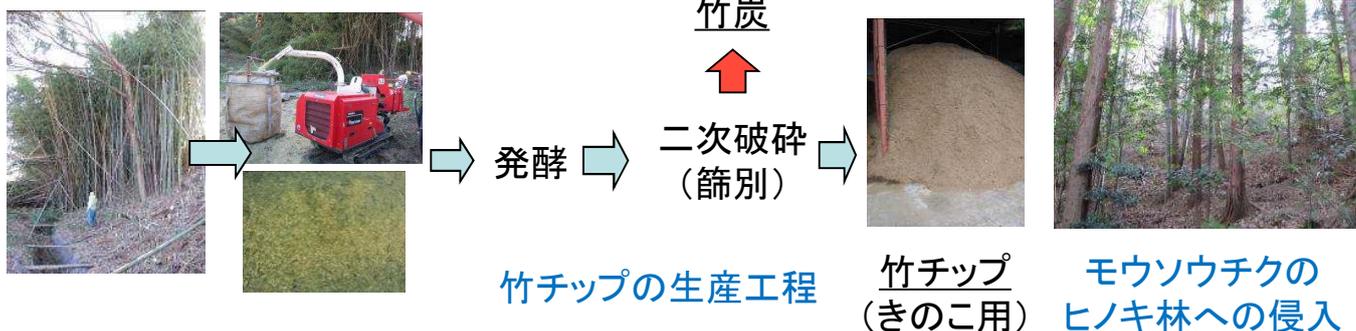
一般財団法人 日本きのこ研究所
NPO法人 竹取物語

目的

放置竹林問題の解決、および竹資源の有効活用を目的として、竹チップを原材料として施設栽培型きのこの栽培化の可能性を検討。

放置竹林の拡大による影響

- ① 種多様性の低下
- ② 農作物や植栽木への被害
- ③ 景観の悪化や交通への障害
- ④ その他



竹チップ培地に対する適性

きのこの発生

竹チップ培地におけるきのこの発生適性(収量性)



適 性	きのこの種類
比較的高い割合の竹チップ培地での適性が高い	ヒラタケ、タモギタケ エリンギ、エノキタケ
竹チップ25~50%程度の代替使用が可能	アラゲキクラゲ、ブナシメジ、 ヤマブシタケ、シイタケ
竹チップ培地への適性が低い	マイタケ、ナメコ

成分的な特徴 (竹チップ培地)

ヒラタケ

一般成分はタンパク質と脂質が増加し、糖質や食物繊維は減少する傾向がみられる。遊離アミノ酸はアスパラギン酸の著しい増加がみられ、グルタミンやアルギニンも増える傾向。

エノキタケ

糖質が増加する傾向がみられ、遊離アミノ酸はグルタミン酸やグルタミン、アラニンなどが増加する傾向がみられる。

エリンギ

グルタミン、アラニンなどの遊離アミノ酸が増加する傾向。

実証栽培(生産者規模)

きのこ	適性(竹の割合が多くなると)
ヒラタケ	○ 対照区との大きな差異はない
タモギタケ	○ 対照区との大きな差異はない
エリンギ	○ 芽数は増加する傾向
エノキタケ	◎ 基部の癒着

* 仕込時、ほこりは舞いやすい



エノキタケの栽培
(生産者 I氏)



ヒラタケ



タモギタケ



エリンギ



(スギ培地)



(竹培地)



左:スギ培地 右:竹培地

エノキタケ

竹チップ培地(100%)におけるきのこの発生
(生産者規模)



0%



10%



20%

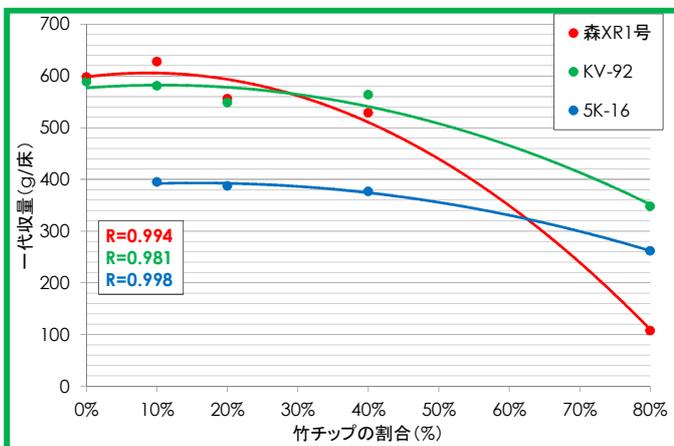


40%



80%

シイタケ栽培における利用



竹チップの添加割合と発生量との関係